令和５年度第２回蓮田市児童福祉審議会会議録

開　催　日　時	令和６年１月２２日（月）			
	午前１０時００分　開会		正午　閉会	
開　催　場　所	蓮田市役所西棟第３・４会議室			
委員出席状況	氏　　名	出　欠	氏　　名	出　欠
	野　口　庸　子 会長	○	菅　野　由紀子 副会長	○
	榎　本　菜　保 委員	○	大　木　正　仁 委員	×
	山　田　正　惠 委員	○	田　中　悦　子 委員	○
	矢　代　玲　子 委員	○	渡　邉　陽　子 委員	○
	細　村　勇　司 委員	○	石　塚　優　香 委員	○
事務局等出席者	生涯学習部長　　小宮雪晴 子ども支援課　　課長　馬場邦明　　副主幹　水沼哲也 保　育　課　　副主幹　荒井英子			
傍　聴　者	無し			

会議事項	議　事 （１）学童保育所の定員の増加について （２）アンケート調査の速報について （３）こども計画の策定に向けて （４）その他
会議資料	①資料１　蓮田市児童福祉審議会委員名簿 ②資料２　議案第８１号　蓮田市立学童保育所設置及び管理条例の一部を改正する条例 ③資料３－１　就学前児童保護者用アンケート調査速報値 ④資料３－２　就学児童保護者用アンケート調査速報値 ⑤資料３－３　１５～３９歳の方用アンケート調査速報値 ⑥資料３－４　蓮田市こども計画をつくるためのアンケート　児童生徒ＷＥＢ調査　調査結果 ⑦資料４　こども大綱説明資料 ⑧資料５　関係法規（抜粋） ⑨資料６　蓮田市児童福祉審議会条例 ⑩当日配布資料　各種アンケート調査結果の一覧 各種アンケート調査票（原本）

会議経過（議事の要旨）

１　開会

本日の審議会については、委員９人が出席していることから、会議が成立する旨の確認を行う。

２　あいさつ

野口会長

小宮生涯学習部長

３　議事

(1) 学童保育所の定員の増加について

・議案第８１号　蓮田市立学童保育所設置及び管理条例の一部を改正する条例（資料２）を１２月定例会に提出し、可決されたことを報告。（事務局）

【質疑・主な意見】　（ ⇒ は事務局の説明）

・定員増加に合わせて、担当職員も増加するのか。また、蓮田中央小学校も校舎が増築され、児童数が増えると思うが、蓮田中央小学校も含め市内の学童保育所の待機児童の状況は。（委員）

⇒職員の増加も必要になるので、常勤１名、非常勤２名という体制でお願いしています。それに伴う報酬等予算の増額ですが、来年度の学童保育所の指定管理委託料に上乗せすることを考えております。市内の学童保育所の待機児童の状況ですが、来年度の１次募集の結果を見ると、主に、蓮田南小学校、蓮田中央小学校の高学年において、待機児童が多く見込まれる予定です。（事務局）

・市内の子どもの人数の状況は。（委員）

⇒横ばいから微減の間の状況です。共働き世帯が増えているため、学童保育所を希望する保護者は増えています。また、地域によっても傾向が異なる結果が出ています。（事務局）

⑵アンケート調査の速報について

・各種アンケート調査の速報（資料３－１～３－４）について説明。（事務局）

【質疑・主な意見】（ ⇒ は事務局の説明）

・郵送の各調査で、「子育てに気軽に相談できる人がいない」、「悩みごとや困りごとがあったときに誰にも相談しない」という回答が一定割合あったことについて、それらの方々を放っておくと、子どもへのＤＶや行き場がなくなりどうしてよいかわからないといったことにつながる方もいる。割合としては少ないが、何とかしてもらえる方法があったらよいと思った。WEB 調査では、問６の自分にとって安心できる場所だと思うところについて、「安心できるところはない」と回答した方が少ないけれども存在する。問４の⑥一人でいることがさびしいと思うについては寂しいか寂しくないかは人によるので、「とても思う」が多くてもどうこうするものではないが、問６で「安心できるところはない」と回答した方については、とりこぼしてはいけない、何とかしてあげたいと思った。また、問８の思いや考えを親以外の大人に伝える方法についても、「わからない」と回答した方が多いので、その方たちに対して相談できる場所や話せる場所、話を聞いてあげられる場所があることをもっと周知したほうが良いと思った。問 16 の家事や家族の世話などの手伝いをしていることが原因で学校生活に影響が出ているかについては、ヤングケアラーの調査だと思うが、ヤングケアラーになっているかもしれない子どもたちは、大変だけれども家のことだからやらなくてはならない、それが自分の役目、当たり前のことと思っている子どもが多いと聞いている。以前、NHK の特集を見たときに、出演者が役所には相談しようと思わないと言っていた。彼らは、自分がケアをしているから学校生活に影響が出ているというのはわかっている。解決してほしいということではなく、今自分が置かれている状況を誰かに話したい、聞いてもらいたい、大変だねと言ってもらいたい、または、そういった思いをしている同じ立場の子どもたちにただ聞いてもらいたい、ただ聞いてもらえるだけで少し安心するということだった。今後、市としてそういったことができる場所やインターネット、チャットなどがあれば良いと思った。（委員）

・能登半島地震で、80 歳過ぎのおばあちゃんが裸足の中学生におぶわれて津波から逃げたといった報道があった。おばあちゃんは、この子が小さいときは私がおんぶしていたのに、まさかこの子におぶわれる日が来るとは思わなかったとのこと。地方だと核家族ではなく地域に育てられることが多いので、このようなことができたのではないかと思った。都会では、このようなことができる中学生がどれくらいいるだろうか。都市化されると、このような問題も考えていかなければならないと思った。（委員）

・家庭教育学級や母子愛育会などの活動に参加していない状況がわかるとともに、その理由として、経済的な理由のほか、仕事が忙しく精神的に余裕がないことなどを挙げている方が多いことがわかった。また、働き方改革の影響なのか、土日の子どもの預かりを必要としている方が少なく、意外だった。子育てに余

力がない方が増えていること、母親が働いていて保育園や学童保育所の需要が増えていることもわかったが、幼稚園の経営は大丈夫なのだろうか。あるいは、小さいうちから母親から離されて、母子関係は大丈夫なのだろうかとも思った。都内に働きに行っている方も前回調査時点より増えているのではないか。ヤングケアラーと思われる子も想像以上に多く、夕飯を食べていない子、食べていても一人や兄弟姉妹だけで食べている子もいて心配になった。（委員）

・小中学生が夕飯を一人で食べている理由の一つとして、塾に行っていることがあげられる。塾によっては塾で夕飯を食べさせて夕食指導をするところもある。（委員）

・気軽に相談できる人・場所として、「民生委員・児童委員」と回答した方の割合が少なかった。若い母親からは、民生委員・児童委員から声をかけない限り声をかけてもらえないということが現状で、その理由としては、民生委員・児童委員は高齢者を対象としているというイメージがあるからだと思う。民生委員・児童委員は、今後、子育てについて、どのように関わればよいのか、役に立てることとは何だろうと思った。また、市として様々な子育て支援策を実施しているのにもかかわらず、そのような支援策の満足度が低い回答が目立った。市の取組が周知されていないのではないか。さらに考察をかけて、そのようなところを考えていただければ良いと思う。また、貧困調査では、学習環境に対して経済的な負担が大きいといった結果が出ているが、一方で年収が 800 万円以上の世帯が各調査で 20%を超えるといった結果が出ている。年収 800 万円は余裕がありそうに思えるが、その年収以上に教育にはお金がかかるということなのだろうか。住宅ローンの返済が厳しいといった声も聞く。年収だけでは計り知れない各家庭への負担や困りごとが、見えない貧困につながっていっているのか。児童生徒への WEB 調査については、学校でアンケートを実施したのにもかかわらず、中学生の回収率が約 70%だったということについて、不登校などの影響が表れているのかなと思い、心配になった。（委員）

・中学生の回収率が低かったのは、インフルエンザがちょうど流行っていて、学級閉鎖もあったので、回収率が低くなったということも考えられる。（委員）

・アンケート結果を見ると、行政には相談しづらいのかなと思う。市として周知に力を入れているが、市民に届いていないのではないか。ではどうすれば良いかと考えたときに、行政が補えないところを地域と連携して実施していければよいと思う。以前訪れた子ども食堂では、食べに来ていた子どもたちが、何回も参加しているうちに子ども食堂を手伝うようになり、新規に食べにくる方々を案内するようになっていた。小さいときからこのような活動に関わっていると、大人になってからも孤立せず人とつながれるようになるのではないか。子育てでつながろう MiNi フェスタでは、一人でチラシを配布するのに苦慮していたところ、中学生たちがやってきて手伝ってくれた。中学生のうちから地域と関わっていくことは、将来の蓮田の人材を育てるうえでも重要なことだと思うし、このようなことが自然とできる蓮田市はすごいと思う。（委員）

・行政に相談しづらいというのは、つくづく感じる。勇気を持って訪問してくれた方に聞いてみると、市役所や学校は敷居が高いと言う。相談しに来る前に、まずは事前に SNS で調べる。その結果、もういいやと思えば相談に来ないし、もっと知りたいと思えば相談に来る、とのことだった。相談に来てもらうには、例えば、地域の方が相談を受けた場合、学校へ相談したら？とか、市役所で相談できると、次の関係機関につなぐということが大事だと思う。つないでいかないと、個人の方が市役所に来るのは相当難しいと思う。15 歳から 39 歳の調査結果については、蓮田市だけの問題ではないと思うが、健康面が心配になるほど SNS の利用時間が多い。また、同じ調査で、1 か月の読書冊数を見てみると、「０冊」と回答した方が約 50%もいる。SNS との関係があると思う。昨年度も新聞社が同様の調査を実施していたが、０冊の割合が年々増加していて、高校生の 45%が読んでいないという結果だった。市では図書館の予算を充実するほか、図書館で幼児を対象にしたおはなしひろばを実施し、学校でも読み聞かせやお話の会、全校一斉の読書タイム

などを実施している。小中学生が一生懸命読書活動に取り組んでいるのをみると、環境を整えることでそうなっているのだろうと思うが、高校生や大人になると、SNS が手っ取り早いのかなと思う。ちなみに高校生が読書しない理由を見てみると、「つまらないから」、「楽しくないから」だった。SNS のほうが楽しいのだろうが、ではいったいどこから知識を得ていくのだろうか。また、「つまらないから」と回答した方には、本を読むように大人から強制されたからつまらないと感じている方もいると思うので、読書の楽しさを教えるのは難しいのかなと思う。児童・生徒への WEB 調査については、思いや考えを親以外の大人に伝える方法を問う質問で、「こどもの計画を作ることや、作った計画がちゃんと進んでいるかについて、委員として参加し、考えを言う」を選択した方がいるが、今後このような制度を設けていくのか。（委員）
⇒未定です。（事務局）

・「子ども議会で、思いを伝える」を選択した方もいるが、子ども議会だと各学校で選ばれた代表２名までとなる。市議会議員にも協力いただき通学路がよくなった事例もあり有意義だが、他市町のように「こども会議」のようなものにして、選ばれた子どもだけではなく、集まった子どもたちで意見を言うような機会があると、いろいろな子どもの意見を拾い上げられるのかなと思う。（委員）

・子育てに対する有効な支援について、就学前保護者と就学児童保護者を比較してみたが、「仕事と家庭生活の両立」や「子どもの教育環境の整備・充実」の割合がどちらも多くなっている。そのうえで、現在の就労状況や子育ての不安・悩みを見てみると、今一番欲しいものは、経済的な安定感と子どもとの触れ合いを含む家族の時間となっている。でも、働かないと生きていけないから働かざるを得ないという矛盾を抱えており、悩んでいる方が多いのかなと思う。また、シングルマザーなどで貧困につながってしまうような家庭で孤立を抱えてしまう子が一定数いるので、こういったところに支援が必要なのかなとも思う。企業側の努力や地域力なども含めて市として総合的に子育てを支えていく必要があるが、その中で市が直接できることが何かと考えたときに、民生委員・児童委員や子育てコンシェルジュによる支援とともに、子育て家庭の時間とお金を支えるサポートと、学校や保育所など施設環境の整備といったソフト面、ハード面両面から、ポイントを絞って考えていくことが必要と感じた。その方法としては、この世代が目にする SNS の活用がどれほどできるかということがポイントになってくると思うが、SNS と一口に言っても媒体がいろいろとあり、ツイッター（エックス）、インスタ、フェイスブック、ブログと多岐にわたっている。広く媒体に情報を提供するとともに、プッシュ型だけでなく双方向でできるチャットの仕組みを導入することも必要だと思う。行政に行くにはハードルが高いが、チャットで名前を伏せて相談できるとハードルが低いということもある。この世代に対しては、SNS での相談をきっかけに、最終的に対面での相談につなげることが必要なのかなと思った。（委員）

・15 歳から 39 歳のアンケート調査の回収率がかなり低くなっている。年齢により置かれている環境が異なるので、世代により調査票を分けたほうがよかったのかなと思った。次回検討いただきたい。（委員）

(3) こども計画の策定に向けて

・こども大綱説明資料（資料４）について説明。（事務局）

【質疑・主な意見】（ ⇒ は事務局の説明）

・こども計画の策定にあたり今回アンケート調査を行ったが、今後も一定の頻度で子どもにアンケートを行っていくのか。（委員）

⇒検討中です。（事務局）

(4) その他

（特になし）

4　その他

委員報酬、議事録、次期児童福祉審議会委員の内定及び委嘱の時期について説明。（事務局）

今回で退任となる委員から挨拶。

5　閉会

菅野副会長